



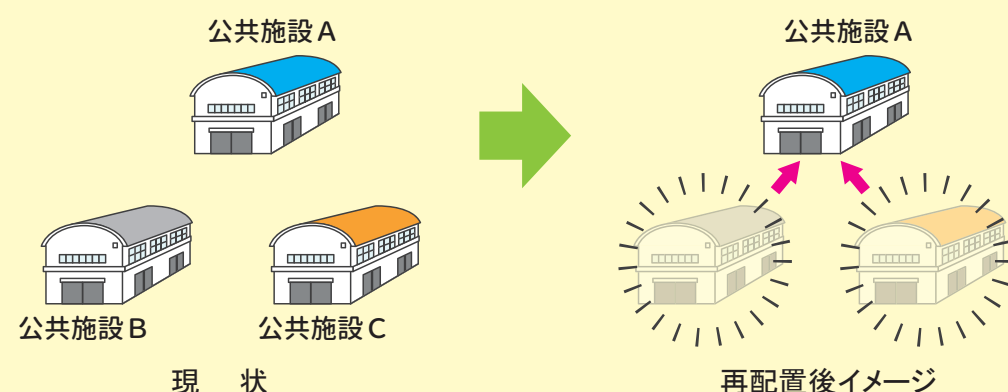
公共施設の再配置ってなに？



引き続き維持していく施設もありますが、複数の施設を1つの施設にまとめたり（統合や複合化）、民間や地域に施設あるいは提供サービスを含む施設を譲渡したり、施設も提供サービスも廃止したりすることです。

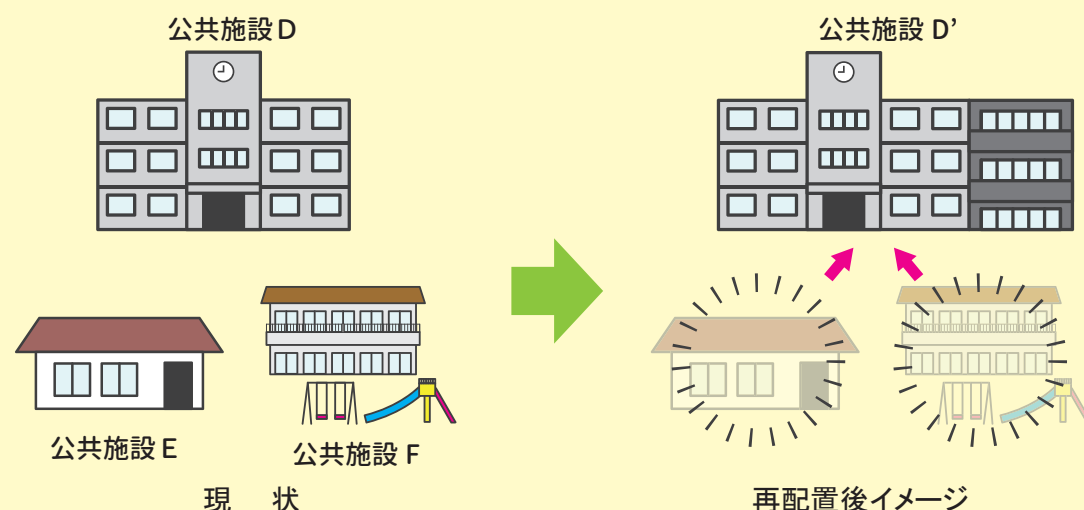
<統合のイメージ>

複数の“同種”の機能を有する施設を、1つの施設に統合すること
(例えば、複数ある体育センターを1つの施設にまとめること)



<複合化のイメージ>

複数の“異なる”機能を有する施設を、1つの施設に統合すること
(例えば、学校や幼稚園、集会所のそれぞれの機能を1つの施設にまとめること)



詳しくは、下記までお問い合わせください。

お問い合わせ 本巢市役所 総務部 総務課

T E L : 0581-34-2511(代表) F A X: 0581-34-5034

E-mail : soumu@city.motosu.lg.jp

本巢市公共施設再配置計画

検索



発行 平成 30 年 3 月



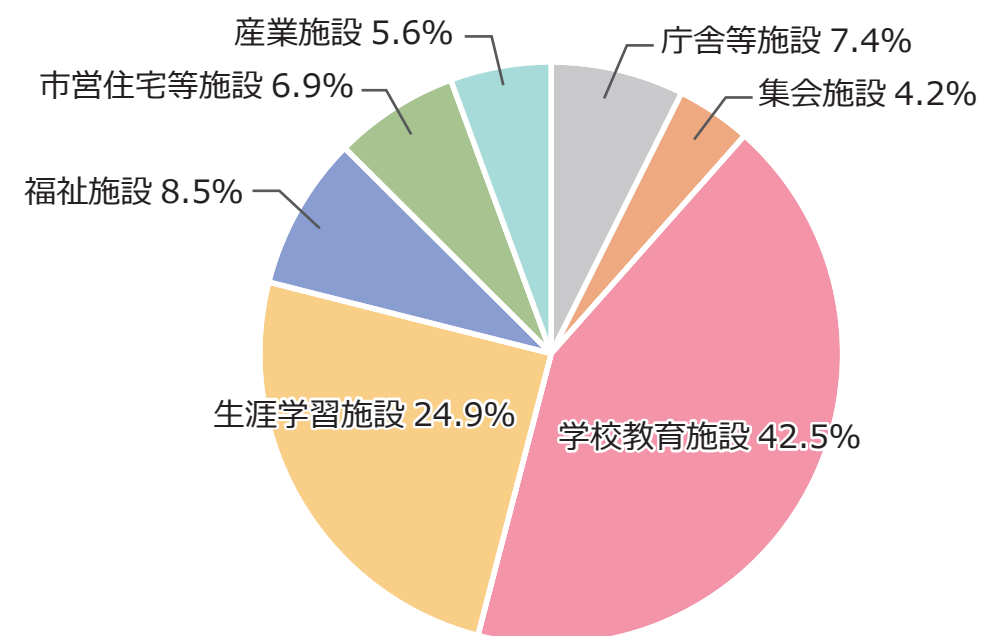
みんなで考えよう
これからの



本巢市の公共施設



公共施設※ってどれくらいあるの？



本巢市の公共施設（分類別の延床面積）の割合

出典：平成 27 年度本巢市公共施設等総合管理計画データベース



本巢市には 98 の公共施設があります。
延床面積の割合では、学校教育施設が 42.5% と最も多くを占めています。
合併前の旧町村単位で公共施設を建設していたので、次のような問題を抱えています。

- 例えば…
- ・類似施設の重複
 - ・市域全体の施設配置バランスの偏りの発生
 - ・小規模施設の多数配置など

※ここでの公共施設とは、建築物を有するいわゆるハコモノ（延床面積 100 ㎡以上）を対象としています。道路や公園、上下水道、ごみ処理場等は含みません。

公共施設ってわたしたちに関係あるの？

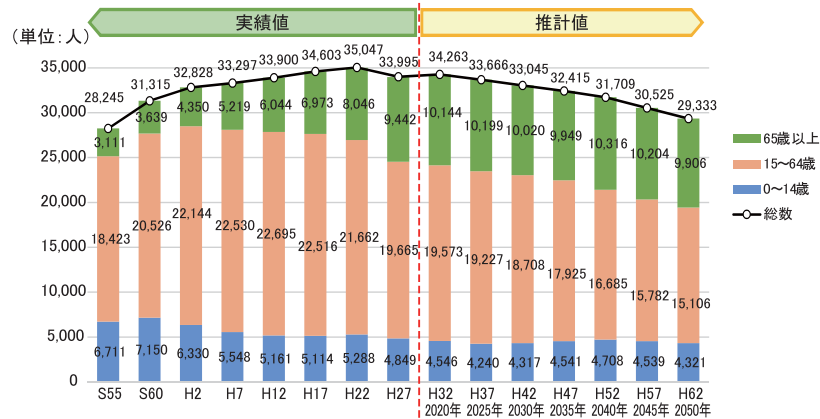
- 公共施設は、わたしたちの生活に密に関わるものです。また、公共施設のあり方を考えることは、将来のまちづくりに大きく関わってきます。
したがって公共施設の将来を考える上で、市民の皆さんの理解と協力を得ることが不可欠です。

なぜ今、公共施設のことを考える必要があるの？

1

本都市の人口

- 今後、少子・高齢化が一層進行し、人口が減少します。
- 生産年齢人口(15～64歳)が減り、老年人口(65歳以上)の増加が予想されています。



2

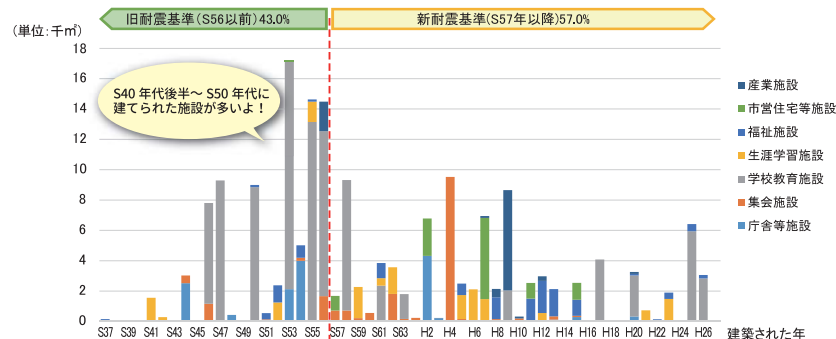
本都市の財政状況

- 財政負担の中心的な役割を果たす生産年齢人口が減少する中、市民税の増加が見込めない状況にあります。
- 高齢化が進む中で福祉・医療などの社会保障経費が増大する見込みです。

3

本都市の公共施設の状況

- 市が保有する公共施設の平均建築年数は平成29年時点で築約28年です。
- 昭和40年代後半から昭和50年代に学校施設の建て替え等を中心に公共施設の建設が集中して行われており、これらの建て替えの波が今後一斉に押し寄せることが予想されます。



- 公共施設の多くが近い将来、一斉に改修・更新の時期を向かえ、多額の費用が必要になると見込まれます。
しかし、市の人口は減り、少子・高齢化が進むため、財政的に厳しく、公共施設の更新などにあてる経費を確保していくことは難しくなります。
また近年、公共施設に対する市民ニーズなどにも変化が見られます。

中長期的な視点で、これからの公共施設のあり方を考えることが必要になっています。
そして、公共施設の再配置(存続や廃止、統合等)を計画的に進めていく必要があります。



本都市では、このような状況を踏まえて、2つの計画を策定しました。

①本都市公共施設等総合管理計画
(平成29年3月)

②本都市公共施設再配置計画
(平成30年3月)

公共施設と社会基盤施設(インフラ資産及びプラント施設)の老朽度や管理状況等の現況と課題を把握・整理して分析を行い、施設全体及び類型別の基本方針を示すとともに、**今後30年間で延床総面積の16パーセント相当を削減**することを掲げました。

総合管理計画に示した削減目標を確実に実現するため、**各公共施設の存続、廃止、統合等の方針、時期などの具体的なロードマップ**を示しました。